

十和田市事務事業評価シート

担当課名	都市整備建築課
-------------	---------

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	7		整理番号	30
基本目標	人と自然が共生する「しぜん感動・創造都市」			
施策の展開方向	生活環境の整備			
事務事業名	市民参加による緑化の推進（十和田市花壇コンクール）			
事務の種類	自治事務	根拠法令等	緑と花のまちづくり推進条例	
関連する事務事業				

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	90	85	80
	人件費(千円)	3,240	3,060	2,880
正職員以外	従事者数(人)	14	13	0
	活動日数(日)	1	1	0
日日雇用職員	人件費(千円)	125	116	0

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	676	605	418
うち一般財源	676	605	418
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	花を飾る市民、事業所、団体、町内会、学校等
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	個人及び事業所の庭、道路や保全地区、公共施設等の環境美化を図る。
手段 (どのようなやり方で行うのか)	コンテスト形式で参加者の庭、花壇、プランター等を審査し、賞を授与する。

【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	花壇コンクールの参加数			
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
		件	102	87	80
	活動指標名				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	花壇コンクールの参加数			
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		件	目標値 102	100	80
			実績値 102	87	70
			達成度(%) 100%	87%	88%
	成果指標名				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		目標値			
		実績値			
		達成度(%)			

十和田市事務事業評価シート

整理No	30
計画No	7

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	B	1	3	存在意義の見直しの余地 1 / 4 「十和田市花壇コンクール」は、市民に個人の庭や道路などの公共施設の花植え美化運動として一定の事業効果をもたらし、近年、庭先を花で飾る住宅や職場などが多く見受けられるようになってきている。
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	成果向上の余地 3 / 6 花壇コンクールの参加者数は例年100件前後で推移してきたが、平成21年から実施を始めた十和田市オープンガーデン事業への移行等に伴って参加者が減少している。
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1		
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	B	1	4	コスト削減の余地 2 / 6 花壇コンクール事業費の検討により、表彰、賞品等についてコスト削減を図る。
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	B	1		
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 参加者は個人、会社、商店、町内会等の団体など広く応募がある。また、審査は専門的な知識を有する団体・個人に依頼して公平性を保持する。
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
			現在の適性	14 / 20	改善の余地 6 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **14** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **6** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

有効性及び効率性を改善して継続

方向性の理由

コスト低減を図りながら継続して実施する。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

「十和田市花壇コンクール」の事業推進に加え、庭造りの参考になるオープンガーデン事業も積極的に拡大し、緑と花のまちづくりを推進する。